

No. 79

2009年（平成21年）

11月1日

発行

浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組

責任者

鈴木悟峰



こころのうちに慈悲の雲

口に六字の夕立の雨

わたしやあなたに濡らされて

妙好人 浅原才市翁



日高組キッズ・サンガ（子どもの集い）

阿弥陀経に聞く

お浄土についてお話します。白鶴とは白鶴です。孔雀。鸚鵡。舍利とは、『名義集』に黄色い色の水鳥とあり、鷺に似た鳥でこれもオウムのように人語を操るといわれています。

迦陵頻伽は、『源平盛衰記』に「頻伽鳥は卵の中にてあれども其声諸鳥に勝れたり」とある声の美しい鳥の名です。共命之鳥は、人面禽形で一身に両頭を有するという。

共命之鳥についてこんな話があります。昔、ヒマラヤの森の中に共命鳥は住んでいました。姿は、胴体がひとつなのに、首から上が二つあるという鳥でした。二つの頭があるのですから、心がそれぞれ独立し、考えることも、食べ物の好みも違っていました。例えば一方が寝たいのに片方は散歩したいとか、一方は山の実を食べたいのに片方は川の魚が食べたいなど万事がこれだけんかが絶えませんでした。あるとき一方は、「いまいいややつめ、こいつがいるから思いどおりにいかないんだ。そうだ、こいつがいなくなれば楽になるんだ」と思い、片方に「おいしい草だよ」といって毒草を食べさせたのです。すると、片方だけでなく自分まで気分が悪くなってきました。このときになって、やっと気が付いたのです。「頭は二つあっても、胴体はひとつ。相手が食べた毒草は自分自身までも殺してしまう」ということを毒が回ってきてから気が付いたのですから、もう手遅れでした。ひとつの胴体しかない共命鳥は哀れなことに死にました。

鳥の話ですが、これを夫婦とも兄弟ともとることができません。争ってはいけない最も身近な人と人は、争ってしまい取り返しのないこととなります。覆水盆に返らず。まだ間に合ううちに「ゴメン」の一言を。

（永原）

「和顔愛語と称名」

十年程前、私は荷物を持ってお参りに向かう途中、「どこへ行くのですか？」と声をかけられ、「網代のお寺へ。」と答えました。

「少し待っていて下さい。」二三分すると引き返してきてくれ、私を網代へと導いてくれました。実は、この方は抱いていた赤ちゃんをおばあちゃんに預けて戻ってきてくれたのでした。私はその道中で心温まる思いがし、深く感謝していました。

和顔愛語と経に記されていますが、まさにこれを実行された姿だと感じました。

この方は十二年程前から、私の家のすぐ近くに住んでおられます。そして今は三人の子宝に恵まれ、夫婦とも一生懸命に働いておられます。あの時の赤ちゃんは小学生となり、夕刻には、ピアノの音色を聞かせてく

れます。その頃ご夫婦が帰ってこられ、おじいちゃんもおばあちゃんも顔を出し、しばらく言葉を交わした後、また明日と帰っていかれます。これからもこのご家族は慈愛の心を持って過ごされていくであります。

さて、善導大師は、「自身は現にこれ 罪悪生死の凡夫 曠劫よりこのかた 常に沈し常に流転して出離の縁あることなしと信ず」と述べられ、この凡夫が救われていく道を示してくれました。それは五正行（読誦、観察、禮拜、称名、讚嘆供養）であり、この第四の称名こそ正定業であると言われ、残りはお業と言われていきます。

法然上人も比叡山で一切経を五度読み通されたのですが、自らが求めた生死出づべき道はなかなか見出されなかつたわけでありま

す。しかし、四十三歳の時善導大師の「観経疏」の御文を見て心にうなずくものがあり、五十一歳で山を下り吉

水に草庵を結ばれました。そこで、専修念仏の教えを説かれ、多くの人々に念仏一つで救われる道を示されたのでした。

親鸞聖人は二十九歳の時、比叡山を下り法然聖人に入門されました。親鸞聖人は法然聖人の専修念仏の教えを聞く中で生死出づべき道を見出されたのでした。そして、親鸞聖人三十五歳の時、念仏停止が命じられ、法然聖人と親鸞聖人は流罪となり、これが師弟との今生の別れとなりました。

法然聖人は念仏為本とし、親鸞聖人は信心為本とされました。のち、親鸞聖人が書かれた「尊号真像銘文」には、称名は正定業であり浄土に往生すべき業因であるとの解釈で、「安養浄土の往生の正因は念仏を本とすと申す御ことなりとしるべし。正因といふは、浄土に生まれて仏にかならず成るたねと申すなり」

「正定の業因は、すなわちこれ仏名をとふなるなり。正定の因といふは、かならず無上涅槃のさとりをひら

くたねと申すなり」

「信心は、菩提のたねなり、無上涅槃をささるたねなりとしるべしとなり」

「南无阿弥陀仏と称える念仏も、その念仏のよつて来る如来の真实信心も一つのものであり、如来の真实の信心が私のものに受け止め

られた所をさして私の信心といひ、その信心は必ず私の口から出る如来の御名念仏となつて現れる。それが称名でありこれを業といひ、信心の信と業とは不離一体のものである。」と示されています。

(北山通昭)

ズ イ ク ヌ 悦 法

平成23年4月から平成24年1月まで、宗祖親鸞聖人の750回大遠忌法要がご本山（西本願寺）で厳修されますが、親鸞聖人が師とした一般に浄土宗の開祖とされる人物は誰ですか。次の1～4の中から1つ選んで、番号を書いて下さい。

- 1 空海 2 法然 3 最澄 4 道元

78号の正解は①尊②馳③走でした。正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

Table with 4 columns of names and addresses: 由良町 畑中 宏之 様, 由良町 尾崎ゆり子 様, 由良町 小林 照代 様, 由良町 久保千代子 様, 由良町 磯田 富三 様, 由良町 谷中 克己 様, 由良町 岩崎 信子 様, 日高町 稲葉 英子 様, 御坊市 塩田 廣一 様, 由良町 吉川 夏子 様

官製ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、御感想、御意見等を明記の上、

〒649-1221 日高郡日高町志賀3851 善宗寺内 組長事務所までお送りください。

※抽選で10名の方に粗品を差し上げます。

※締め切り日 平成22年1月31日 必着

※発表は次号

親鸞聖人750回大遠忌 日高組お待ち受け法要厳修



- ☆日 時 平成22年4月18日（日） 午前10時～午後3時
- ☆場 所 法要会場 蓮専寺（由良町）〈午前〉
行事会場 光専寺（由良町）〈午後〉
- ☆法要内容 稚児行列・お勤め
- ☆行事内容 仏教落語「他力本願」・古典落語
- ☆落語家 桂 福楽
- ☆昼食を準備いたします。参拝者は、各所属寺へお申し込み下さい。



桂福楽さん

親鸞聖人によって開かれた浄土真宗は、阿弥陀仏の願いを信じお念仏し、この世のいのちつくるとき浄土往生（成仏）するみ教えをおすすめ下さいました。

南無阿弥陀仏の名号を聞信するところに往生が定まり、報恩感謝の思いから称名念仏の日々を過ごさせていただくことであります。このみ教えをおすすめ下さった宗祖親鸞聖人さまがお亡くなりになり750年を迎えようとしています。

平成23年には本願寺におきまして「親鸞聖人750回大遠忌法要」が厳修されますが、その円成に向けて日高組におきましても親鸞聖人のご苦勞とご遺徳を讃え、この度の「お待ち受け法要」を由良町の蓮専寺・光専寺をお借りして厳修させていただくことであります。

**お稚児さん
募集**

- ◇参加費 5,000円
（貸衣装代・記念品代含む）
- ◇参加年齢 問いません
- ◇行列コース 光専寺（午前10時出発）
蓮専寺《約30分》
- ◇申込締切り 平成22年1月20日
- ◇申込先 各所属寺
- ◇詳細は、各所属寺へお問い合わせ下さい。

日高組、親鸞聖人750回大遠忌法要では、前号でもご案内致しましたが「稚児行列」を行います。
各寺院の掲示版に稚児募集のポスターが目につくかと存じます。
各寺での法要ではなかなか出し難い稚児行列です。この機会に、お子さん、お孫さんを稚児行列にお誘い合わせ参加させてみませんか。この法要では百名の稚児さんを予定しています。



日高組通信

☆行事報告

・日高組子どもの集い（キッズ・サンガ）
八月九日（日）、日高町小浦、円行寺に於いて開催しました。（表紙の写真はその時の様子です。）
今年の日高組内の十ヶ寺から五十八名の児童が参加してくれました。参加者が多く動きの大きなゲームなどはできませんでしたが、影絵や、紙芝居を見たり、座布団ゲームなどとして楽しい一時を過ごしました。

ご協力頂きました各教化団体の皆様に御礼を申し上げます。
・日高組総代会前期研修会
七月十九日（日）、一組内寺院めぐり、懇親会」を昨年引き続き開催しました。今年は、由良町大引の浄明寺、由良町横浜の光専寺、日高町比井の長覚寺さんを訪問させて頂き、各寺院の歴史など概要の説明を受けました。また、懇親会では各寺院の状況など懇談し、親睦をはかりました。

☆行事予定
・日高組「真宗法座」
日高組第十五回「真宗法座」を次のとおり開催いたします。
日時：十二月十九日（土）
午後一時三十分
場所：日高町志賀、即生寺
講師：武田達城師
何方でも参加できます。
お誘い合わせご参加下さい。

なお、当日のお勤め「正信偈」は、日高組第八期連続研修会受講者の皆さんでお勤めします。